所報　平成3年9月15日創刊　令和元年7月15日発行・毎月1回15日発行・No. 320
一般社団法人 協同総合研究所 ISSN 1344-7300

協同の發見

きょうどうのはっけん

第320号
2019.7

特集　労働者協同組合法（仮称）の現局面と展望

◎ 山本 幸司　法制化運動の取組みの経過と到達点等
◎ 島村 博　労働者協同組合法案（仮称）骨子について
◎ 小白井 加代子　「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議とちぎ11年間のあゆみと法制化後の役割
◎ 塩川 洋（インタビュアー：相良　孝雄）
現場から「労働者協同組合法」を考える－自分ごととして、地域で働き、社会をつくるために－
◎ 多木 誠一郎　労働者協同組合法への期待

■会員だより
今井 和美、野口 英夫
夫婦で過ごした“妻の看取り”を通して感じたこと　ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟の実践から

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（Vol.28）
松崎 愛　ワーカーズコープと出会って

■一般社団法人協同総合研究所　第7回（通算29回）通常総会報告
（一般社団法人協同総合研究所 第３期（2017年度～2018年度）理事長退任あいさつ）
島村 博　協同の根本大法を求めて

■巻頭言
古村 伸宏　一般社団法人協同総合研究所 第４期（2019年度～2020年度）の理事長就任にあたり

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の發見

第320号 2019.7

特集　労働者協同組合法（仮称）の現局面と展望

目 次

巻頭言
一般社団法人協同総合研究所 第４期（2019年度～2020年度）の理事長就任にあたり …… 2
古村 伸宏（協同総合研究所理事長/日本労協連理事長）

特集　労働者協同組合法（仮称）の現局面と展望
・特集にあたって …… 4
利根川 徳（協同総合研究所　専務理事）

・法制化運動の取組みの経過と到達点等 …… 10
山本 幸司（日本労協連副理事長/会員）

・労働者協同組合法案（仮称）骨子について …… 18
島村 博（協同総合研究所常勤顧問/主任研究員）

・「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議とちぎ
11年間のあゆみと法制化後の役割 …… 33
小白井 加代子（センター事業団　北関東事業本部　本部長/会員）

・現場から「労働者協同組合法」を考える
－自分ごととして、地域で働き、社会をつくるために－ …… 39
塩川 洋（センター事業団　府中地域福祉事業所あおばケアサービス所長）
インタビュアー：相良 孝雄（協同総合研究所　事務局長）

・労働者協同組合法への期待 …… 44
多木 誠一郎（小樽商科大学教授/会員）

会員だより
夫婦で過ごした“妻の看取り”を通して感じたこと
ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟の実践から …… 50
今井 和美（小規模多機能型居宅介護事業所　ささえ愛下山　看護師/会員）
野口 英夫（ささえ愛下山　管理者）

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（Vol.28）
ワーカーズコープと出会って …… 55
松崎 愛（日胆まちづくり地域福祉事業所　ぽっけ所長）

一般社団法人協同総合研究所　第７回（通算29回）通常総会報告 …… 61

一般社団法人協同総合研究所 第３期（2017年度～2018年度）理事長退任あいさつ
協同の根本大法を求めて …… 110
島村 博（協同総合研究所常勤顧問/主任研究員）

労協連だより　髙成田 健 …… 112
研究所だより　荒井 絵理菜 …… 113

巻頭言

一般社団法人　協同総合研究所 第４期(2019年度～2020年度)の理事長就任にあたり

古村 伸宏（協同総合研究所理事長/日本労協連理事長）

97回目となった「国際協同組合デー」。今年の世界共通テーマは「COOPS FOR DECENT WORK」。「協同組合は働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を実現します」という日本語表記である。「ディーセント・ワーク」という言葉は、2002年のILOにおける「協同組合促進勧告」の議論の中で頻繁に耳にした。元労協連理事長の菅野正純さんは、ジュネーブでの上記勧告の議論に直接参加する中で、「ディーセント・ワーク」を「尊厳ある労働」と訳し我々にその意味を紹介してくれた。「ディーセント」という言葉は、なかなか日本語になりづらいという。しかし、働くことをめぐって頻繁に「ディーセント」という言葉が語られる中で、協同組合に向けての「ディーセント・ワーク」への期待は何を意味するのか。その問いを探る中で行き当たったのが、本誌NO.121号に記された、協同組合促進勧告2002についての菅野元理事長の解説だ。(「大量失業の克服と労働の人間的再生(ディーセント・ワーク)に向かって―ILO『協同組合の促進に関する勧告(2002)』の核心―」)

彼は勧告の核心を、①ディーセント・ワーク、②社会的経済セクター、③主体形成(エンパワーメント)と自立支援、④労働組合と協同組合の再合流、の４つにまとめている。協同組合を積極的に促進する意味を、世界はすでに15年以上前に呼びかけており、その核心はまさに今、我々協同組合運動及び協同労働運動が具体的に格闘しはじめているテーマではあるが、これらにまとまりを持たせ、関連づけて見て行くことが重要ではないだろうか。例えば本研究所も実践にコミットしながら「社会的連帯経済」を今年度の中心テーマの一つにおいているが、それが「ディーセント・ワーク」や「自立支援」との関連性を持たせて行くことは、自立支援の様々な制度が直面している「事業評価」に大きな影響を与えるだろう。時代はもはや、個別対策では本質に辿り着けないほど複雑に絡み合っている。いや、そもそも命の世界は複雑に関連し合い生態系を成り立たせてきた。これを個別化してきたのは人間の都合と思考によるものだ。

故あってこの度、本研究所の理事長の任を負うこととなった。労協連の理事長の任を兼務するという重責であり、生来「研究」とは最も距離がある身だとは承知しつつ、しかしこの任を負う意味を前向きに捉えた。それは、労働者協同組合法の実現から社会化へのこれから10年の中で、労協連に関連する全ての組織が、そのアイデンティティを再構築する時期となる。その中にあって「協同総合研究所」の「総合」に込められた意味を、研究活動と研究所の取り組みを通して体現すること、そしてその結果、協同総研が多様な人々と多様なテーマを呼び込みながら、一つのまとまりを持った、オルタナティブではない、新しい社会と世界の展望を煌々と照らす存在へと高まっていかなければならない。そのために、閉ざされた固有の知から、開かれた万有の知を連鎖し創造する研究所を探求したい。研究者と実践者の協同を超えて、理性・知性・感性のプラットフォームとしての協同総研。そしてそれは単なるプラットフォームではなく、挑戦的で冒険的な研究所という体質を築いて行くことになるだろう。果たしてこれが、協同労働運動の中で生まれた研究所の「ディーセント」なあり方なのか？少し常識や固定観念を脱いで、協同総研の「ディーセント」を、創造的に追求していきたい。そのためには「雑」なる存在が不可欠である。これが我が任を負う理由である。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワーカーズコープ）への注目が増しています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。

研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の發見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。

●今月の表紙

総会での出席者記念写真。今期の協同総研総会で、理事長の島村博さんが退任し、古村伸宏さんが新理事長となった。島村さんは引き続き常勤顧問として日常的に研究所に関わる体制となる。「労働者協同組合法」(仮称)成立、そしてその施行・活用をしていくために会員の皆さんと協同で取り組んでいきたい。

所報　協同の発見　７月号(通巻 320号)

2019年7月15日(毎月1回15日発行)
編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所
代表／古村 伸宏
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F
Tel 03(6907)8033　Fax 03(6907)8034
Email　kyodoken@jicr.org　　URL　http://jicr.org/
郵便振替口座　00140-7-552949

定価 1,300円(本体 1,204円)